

# 令和4年度 学校経営計画

## 1 学校教育目標

「明るく 仲よく 元気よく」を校訓として、自分のもつ力を発揮し、豊かに生活する人間を育成する。

## 2 学校の特徴

福祉型障害児入所施設「富山県立砺波学園」に隣接した知的障害教育を行う特別支援学校である。個々の児童生徒の能力や特性、砺波学園の利用目的等に対応した教育を行っている。

- (1) 一人一人の心身の発達の状態、能力、特性、障害の状況を把握し、保護者と砺波学園、学校の三者による個別の教育支援計画を作成し、個々のもつ力を最大限に発揮できる児童生徒の育成に取り組んでいる。
- (2) 心身両面のケアを必要とする児童生徒への適切な指導に努めている。
- (3) 障害の重度・多様化に対応する教育活動、環境づくりに努めている。特に、個に応じた課題づくりや学習環境づくりに配慮している。また、よりよい関わり方を工夫し、全ての児童生徒が自信をもって主体的に活動に取り組むことができるようにしている。
- (4) 豊かな社会生活を送る素地を養うため、近隣の小学校、中学校、地域の方々との交流を積極的に行っている。
- (5) 災害時や校外での児童生徒の安全確保のために、砺波学園や地域との連携・協力を努めている。
- (6) 砺波市における特別支援教育のセンター校として、教育相談や特別支援教育に関する啓発活動、情報提供を行い、関係機関との連携を図っている。
- (7) 砺波学園の短期入所及び日中一時支援に伴う教育参加を受け入れ、教育の充実に努めている。

## 3 学校の現状と課題

本校には、小・中学校特別支援学級での学習が一部可能な軽度知的障害、重度・重複障害や自閉症等を有する児童生徒、心のよりどころが不安定で心身ともに細やかなケアを必要とする児童生徒が在籍している。一人一人の教育的ニーズに応じ「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、教育内容の充実に努めると共に、ICT機器等も活用しながら、効果的な指導支援を目指すことが求められている。

また、学校や砺波学園における集団生活や将来の自立と社会参加に向けて、自分と他者が心身共に気持ちよく健康的に生活するための考え方やスキルを身に付けることが求められている。そのため、清潔や健康管理、心身の発達と対人関係のマナー等について、保護者・砺波学園と連携し、障害の特性や発達段階に配慮した指導・支援を計画的に進めていくことが必要である。

さらに、児童生徒の進路指導に関する知識や情報を幅広く収集し、それぞれの学部(学年)における進路に関する学習の内容を整理して、小学部入学から中学部卒業までの一連のプロセスを大切にしながら、段階を追った進路指導ができるようにする必要がある。個別の教育支援計画とも照らし合わせ、本人・保護者の願いを基に砺波学園と連携しながら取り組んでいきたい。

地域における特別支援教育のセンター校としては、教員の専門性の向上や在籍児童生徒の教育実践の充実に努めながらセンター的機能の充実に努めていきたい。

以上の取組を進める中で、本校の教育目標や教育活動等を、保護者や地域住民、砺波学園をはじめ関係機関等に発信し、地域に開かれた、地域と共に歩む学校づくりに努めていきたい。

#### 4 学校教育計画

項 目		目 標 ・ 方 針 及 び 計 画	
1	学習活動	目 標	・ 児童生徒が心身共に安定し、個々の能力を伸ばすことができる系統的な学習内容を精選する。
		計 画	・ 児童生徒一人一人のニーズや身に付けさせたい力を見極めながら個々の障害や特性に応じた教育の内容を検討し、教育課程を編成する。個々の障害や家庭環境等について砺波学園と連携し、情報共有して教職員間での共通理解を図る。
		目 標	・ 生活能力を高めるとともに人との関わりや生活経験を広げ、学習に主体的に取り組むことができるようにする。
		計 画	・ 砺波学園の生活に即した実際の・具体的な学習内容の設定や支援の工夫を行う。 ・ 近隣の小学校や中学校との交流及び共同学習（相手先と連絡を密にして実施方法や活動内容を十分に検討した上で）を継続的に実施していく。
		目 標	・ 児童生徒の自立と将来の社会参加につながる指導・支援の充実を図るために、ICTを活用した学習活動の推進を図る。
		計 画	・ 動画視聴等による研修や外部講師による指導助言を通して、ICT活用に関する教員の知識を深め技能を高める。 ・ ICT活用による学習活動の実践例を集積し、活用場面、活用機器等について情報交換、情報共有を行う。 ・ ICTの有効活用により児童生徒の主体的・対話的で深い学びにつながる授業改善を行う。
2	学校生活	目 標	・ 児童生徒の安全確保に努めるとともに、安全に対する意識の向上を図る。
		計 画	・ より迅速な対応ができるよう火災時避難誘導マニュアルを整備する。また、避難誘導體制を全教職員が共通理解できるように、砺波学園と連携した教職員の防災に関する訓練を実施する。さらに、児童生徒の防災への意識を高めるために防災教室を実施する。 ・ アレルギー緊急時対応の仕方についての教職員の理解を深めるために、アレルギーに関する研修会を実施する。
		目 標	・ 児童生徒の心身に関する実態の把握と病気や感染症の予防・早期発見に努める。 ・ 児童生徒の健康の保持・増進や他者（特に異性）との適切な関わり、清潔に対する主体的態度の育成を図る。
	<b>重点 1</b>	計 画	・ 心身の状況を把握し、病気の予防や早期発見・改善をするために、毎日の健康観察や砺波学園との緊密な情報交換を行う。 ・ 児童生徒が自らの健康を保持・増進し、他者と良好な関係を築くためのスキル、性に関するマナーや必要な知識、清潔感を身に付けられるよう、指導内容を充実させる。
3	進路支援	目 標	・ 卒業後の姿を見据え、児童生徒の能力や特性等を的確に把握し

	重点2		ながら、段階を追った進路指導及び支援を行う。
		計 画	<ul style="list-style-type: none"> <li>発達段階や適性に応じて、基本的な生活習慣を土台とした生活する力と働く意欲や態度を土台とした働く力を育てる。</li> <li>一人一人が卒業後の社会自立の姿を想像し、目標をもつことができるように、各学部や学年に応じた指導をするとともに、知見を広め、児童生徒や保護者、砺波学園に対して、必要な情報提供を行う。</li> </ul>
4	特別活動	目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>委員会活動や全校集会を通して、集団の一員としてよりよい学校づくりに参画し、協力して課題を解決しようとする主体的・実践的態度を育てる。</li> </ul>
		計 画	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校生活の充実に向けた話し合いや実践的活動に取り組む委員会活動を月1回程度、全校集会を3学期に実施するとともに、年間を通して「全校ボランティア活動」を実施する。</li> </ul>
		目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒の図書への興味・関心の幅を広げ、読書活動の推進に努める。</li> </ul>
		計 画	<ul style="list-style-type: none"> <li>図書の配置や環境を工夫し、児童生徒が利用しやすいようにする。</li> <li>読み聞かせや図書の紹介を計画的に行うことにより、様々な図書に触れる機会を設定する。</li> <li>学習指導や特別活動などの内容が充実するよう、公立図書館の図書を活用する。</li> </ul>
5	その他	目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>砺波市の特別支援教育のセンター校として、幼・保・こ・小・中・高等学校における特別支援教育の理解や推進を目指し、教材の情報提供など支援の充実を図る。</li> </ul>
		計 画	<ul style="list-style-type: none"> <li>幼・保・こ・小・中・高等学校のニーズを捉え、学校コンサルテーションの立場で教育相談を実施する。また、特別支援教育に関する研修の機会を設けたり地域の学校（園）の教材のニーズを把握したりする。</li> <li>教育相談の児童生徒の学習や行動等への支援に適した教材の情報を提供できるように教材ファイル等の整理を行う。</li> </ul>
		目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者が安全に安心して参加することができる PTA 活動の企画・運営をサポートする。</li> </ul>
		計 画	<ul style="list-style-type: none"> <li>PTA の各部会主催の活動を感染症対策を行いながら実施する。</li> </ul>
		目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>砺波学園と連携し、学校の教育方針、砺波学園の療育方針について相互に理解を図りながら、教育的ニーズに基づき指導に当たる。</li> <li>砺波学園と密に連絡を取り合い、児童生徒の心身の健康状態や家庭の状況について情報を交換し、指導に生かす。</li> </ul>
		計 画	<ul style="list-style-type: none"> <li>担任と居室担当者による二者懇談会や、必要に応じて関係者によるケース会議を実施する。</li> <li>定期的に砺波学園・学校合同委員会を開き、必要事項の連絡や児童生徒の家庭状況、学園・学校の様子について共通理解を図る。また、喫緊の課題について随時検討を行う。</li> </ul>

## 5 今年度の重点課題

令和4年度 となみ東支援学校アクションプラン1 ー生活指導部ー		
重点項目	健康と性に関する指導	
重点課題	児童生徒の年齢に応じた健康と性に関する指導の充実	
現 状	<p>本校の児童生徒は、障害の特性や生活経験の乏しさから、男女の体の違いが分からない、性器の洗い方が不十分で、性器に炎症などがある、こういった場面で自慰行為をしてよいか知らないなど、性に関わる基本的な理解が不十分で、それらに関する清潔への意識やマナーについても課題が多い。児童生徒は全員が福祉型障害児入所施設 砺波学園（以下学園）に入所し、男女共に集団生活をしている。</p> <p>そこで砺波学園の保健師と情報交換しながら、児童生徒が自らの健康を保持・増進し他者（特に異性）と良好な関係を築くためのスキル、性に関するマナーや必要な知識、清潔感を身に付けられるよう、指導内容を充実させる必要がある。</p>	
達成目標	学校での指導	学園との連携指導
	小学部及び中学部で年間3回以上の保健指導を行う。	年間2回 学園に出向き、児童生徒を前に学校での指導方法を学園の職員にも示範する。
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>継続的、段階的に健康と性に関する指導を行うために、年間を通した指導計画を作成する。</li> <li>外部講師を活用して、児童生徒に対する保健指導と、教員研修を行う。</li> <li>学園と連携して指導に取り組むために、養護教諭と学園保健師との情報交換を密に行う。</li> </ul>	

令和4年度 となみ東支援学校アクションプラン2 ー教務部ー		
重点項目	進路支援	
重点課題	進路支援の充実	
現 状	<p>本校は、砺波学園に入所する小学部と中学部の義務教育段階の児童生徒が通う学校である。中学部卒業後は、となみ総合支援学校の高等部に進学する生徒が多いが、進学を希望しない生徒もいる。いずれの生徒の場合も、学園を退所した後の生活のことを考えると、本校在学中に大まかな見通しを段階的にもてるようにしておくことが必要である。</p> <p>しかし、教員の進路に関する知識は十分であるとは言えない現状にある。また、児童生徒が社会自立に向けた様々な学習に取り組む中で、日々の成長を実感したり現在の自分から将来の自分について考えたりすることができるよう支援していくことが望まれている。</p>	
達成目標	外部講師を招いた進路に関する研修会の実施	進路指導計画と連動したキャリア・パスポートの作成、集積
	年間2回	児童生徒一人当たり年間5枚程度
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>外部講師を招いて、福祉、就労、教育の視点から進路に関する講話を聞き、児童生徒の進路指導及び支援に生かす。また、保護者、砺波学園に対して、必要な情報提供を行う。</li> <li>児童生徒が自分を評価（自己評価、他者評価）したり目標やこれから取り組むことを考えたりすることができるようにするために、進路指導計画に記載された進路に関する行事等や進路に関する学習についてキャリア・パスポートを作成、集積する。</li> </ul>	